

平成 17 年 2 月 14 日

各 位

国際石油開発株式会社

代表取締役社長 松尾 邦彦

(コード番号：1604)

問合せ先：広報室長 伊藤 成也

(電話：03-5448-1238)

アゼルバイジャン共和国 カスピ海 ACG 鉦区アゼリ油田（中央部）生産開始について

当社は、子会社インペックス南西カスピ海石油㈱を通じて事業を推進しておりますアゼルバイジャン共和国領カスピ海海域 ACG 鉦区アゼリ油田において、開発作業を実施しておりますが、この度 2 月 13 日より、アゼリ油田中央部開発での原油の生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

アゼリ油田中央部の生産は、今後順次拡大し、2005 年中に累計 3,400 万バレル（年間平均換算日量約 93,000 バレル）を生産する予定となっております。本油田の生産原油は、ACG 鉦区において早期開発生産中のチラグ油田の原油（2005 年 1 月末日量約 150,000 バレル）とともに、今般規模が拡張されたサンガチャル陸上基地を経由し、当初はアゼルバイジャン・バクーから既存パイプラインにて輸出されますが、本年後半に予定されているバクーからグルジア・トビリシを経由しトルコ・ジェイハン（地中海）に至る新規パイプライン（BTC（Baku-Tbilisi-Ceyhan）パイプライン）の完成後は、既存パイプラインに加えて、当パイプラインにより輸出される予定です。

アゼリ油田中央部の生産開始は、ACG 鉦区 3 油田の総合開発の重要な第一段階（フェーズ 1）であり、今後、更に、2006 年に生産が開始されるアゼリ油田西部及び 2007 年に生産が開始される同油田東部（フェーズ 2）、2008 年に生産が開始されるグナシリ油田深海部及びチラグ油田西部（フェーズ 3）の開発作業が行われ、2009 年までに ACG 鉦区全体で、日量 100 万バレルを超える原油生産の達成を目指しています。

当社は、オペレーターの BP 社 34.1%、Unocal 社 10.3%に次ぐ、10%の参加権益比率で本事業に参加いたしております。なお、他の日本企業としては、伊藤忠商事㈱も本事業に参加しております。

今回の生産開始は、当社グループの生産量の拡大に大きく貢献するものとなります。

補足説明

ACG 鉦区（生産分与契約）の概要

ACG 鉦区は、アゼルバイジャン共和国領カスピ海海域に位置し、面積は、432.4km²、アゼリ油田は、同国首都のバクー市の東約 100km に位置し、水深約 128m にあります。ACG 鉦区は、アゼリ油田、チラグ油田、グナシリ油田の 3 油田により構成されており、本鉦区の実生産分与契約は、1994 年に締結されております。

参加の経緯及びパートナーの概要

当社子会社のインペックス南西カスピ海石油㈱（資本金：535 億 9,400 万円、株主：国際石油開発㈱51%、石油公団 49%）は、2002 年 12 月、本鉦区の参加権益 10%を取得しました。本鉦区の実生産分与契約保有者は、同社のほか、オペレーターの BP 社（34.1%）、Unocal 社（10.3%）、アゼルバイジャン国営石油会社 SOCAR（10%）、Statoil 社（8.6%）、ExxonMobil 社（8%）、TPAO 社（6.8%）、Devon 社（5.6%）、伊藤忠商事㈱（3.9%）及び Amerada Hess 社（2.7%）となっております。

BTC パイプライン

アゼルバイジャン共和国バクーからグルジア共和国トビリシを経由し、地中海に面するトルコ共和国ジェイハンに至る総延長 1,760km の新規原油パイプライン。通油量は、日量 100 万バレルを見込んでおります。当社は、アゼルバイジャン ACG 鉦区生産原油及びカザフスタン北カスピ海鉦区事業での生産原油の搬出路確保を目的として、子会社 INPEX BTC PIPELINE, LTD.を通じて、本パイプラインの建設・操業の事業主体である BTC Co. に 2.5%の出資シェアで参加しております。

以上

ACGプロジェクト拡大図

